

第34回甲府市地域自立支援協議会全体会 議事録

日時：令和4年7月22日（金） 13時30～

場所：甲府市役所1階 市民コミュニティホール

〈参加者〉

全体会 大塚ゆかり会長

定例会 千野由貴子会長

鈴木茂友委員 渡辺花子委員 久保育枝委員 内藤功洋委員 齊藤 将委員 佐田弘和委員
岡田雅人委員 杉本 修委員 板山俊介委員 土屋洋一委員 風間俊宏委員 保坂辰
男オブザーバー 飯室正明オブザーバー

〈事務局〉

甲府市役所：望月福祉保健総室長 原山障がい福祉課長 雨宮課長補佐 岡課長補佐
武田係長

甲府市障害者基幹相談支援センターりんく：深澤係長 保坂相談員

甲府市地域生活支援拠点コーディネート事業らいぶ：廣野コーディネーター
市川コーディネーター

司会：原山障がい福祉課長

議長：大塚ゆかり 会長

【次第】

- 1 はじめのことば
- 2 全体会会長あいさつ
- 3 福祉保健部福祉保健総室長あいさつ
- 4 議事（協議事項）
 - （1）定例会（5月27日）を終えての課題について
 - ①甲府市における相談支援体制について
 - ②地域生活支援拠点事業について
- 5 議事（報告事項）
 - （2）専門部会の活動報告及び協議について
 - ①地域移行部会
 - ②児童部会、医療的ケア児（者）支援協議会
 - ③就労支援部会
 - ④相談支援部会

⑤権利擁護連絡会/課題整理機関

(3) 甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告

(4) その他

- ・新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン及びBCP（業務継続計画）作成状況等の調査結果
- ・ヤングケアラー支援について

6 その他

山梨県障害者自立支援協議会について

【議事】（協議事項）

①甲府市における相談支援体制について

りんく：資料1についての説明

全体会会長：本来は第3層の体制をしっかりと考えていかななくてはならないところを、実際は第2層の個別相談に時間がかかり取られてしまっている中で、この体制をどのように作り上げていけばよいかということによろしいか。

りんく：その通り。

全体会会長：この体制に対して、第1層2層に時間がかかってしまい第3層が充実していくのが難しいという現状の中で、定例会、全体会、甲府市がどのように協力していけば第3層の部分の充実させることができるのか。定例会の中で何か提案や意見はあったか。

りんく：定例会では甲府市の相談支援体制に対してどのようなビジョンを描いているのかという意見があった。様々な壁がある中で相談支援の質の向上を図っていく必要があり、体制整備や人材確保が必要になってくる。まずはどういった体制がいいのかというところの共有ができればいいと思う。

オブザーバー：前回の定例会では、基幹的な動きをしつつも個別相談に追われていて難しい状況があるという話があった。中北の圏域では第2層の市町村が行うべき相談支援の事業を委託相談として行っていた。その部分を統合して基幹相談支援センターという形になっているため、業務が厳しい状況にある。こうした厳しい状況に対して甲府市としても何か意見があれば伺いたいと定例会で聞いたところである。

全体会会長：全体会の委員の中で質問はあるか。

委員：甲府市から1層2層3層の部分はそれぞれどこが担っているのかを共有してほしい。

りんく：第1層の部分は甲府市内では27事業所が計画相談を担っている。相談員の数は約50人。第3層の部分は基幹相談支援センターりんくが担っている。第2層の部分は障害者相談支援事業の部分をりんく、計画相談の部分も主にりんくが担っている。

委員：第1層、2層の部分で両方に掛かっている部分があるように見えるが、完全に層が分かるといふより、両方にかかっているものもあるのか知りたい。

りんく：計画相談につながるまでに多くの時間を要するようなケースは第1層からりんくがやっている部分もあり、両方にかかっているものがある。

委員：今後中身にかかる資料でカラーの方がよいものは、カラーの資料かデータでいただきたい。

全体会会長：第1層から3層までりんくが被ってやっているが、第3層を行うためにはりんくのみではなかなか対応しきれないため他の対策を検討するとのことでしょうか。今の相談支援体制について意見はあるか。

委員：障がい分野に深く関わっていないような人からすると、障がいサービスを利用しようとなったときにどこの窓口でどのように相談したらよいのか全く分からず、入り口としてりんくから相談員の方を紹介してもらったという流れがあった。それぞれのサービスに応じて相談先が違くと複雑なので、どの内容の相談もまずはりんくが受け止めて、そこから適切な機関への割り振りがあるとよいのではないかと資料の図を見て思った。どこに相談があっても最終的に必要なところにたどり着くといった図なのかなと思った。是非その方向で頑張っていってもらいたい。

委員：基幹相談支援センターりんくができる前に、甲府市の自立支援協議会の中でワンストップの方がいいだろうというみなさんの意見を取りまとめた上で、甲府市はこの体制でスタートしたのではないかと思う。ただ、甲府市がこれから先もワンストップで行くのであれば、今のりんくの数ではマンパワーが圧倒的に足りない。甲府市と同じくらいの人口の岸和田市が地区ごとに6か所に事業所を設けて委託を行っ

ているが、そのように地域に委ねていくのであればそのシステムを作っていかなく
てはいけない。平成26年に基幹ができ、今も当時決まった体制で行っているが、
ここで地域にとって何がいいかみなさんで話し合う時期が来ているのではないかと
思う。今の甲府市の障がいの相談支援体制としてのマンパワーが圧倒的に足りてい
ないという現状を理解した上で、今後どうしていこうかという話し合いができれば
良いと思う。

定例会会長：定例会でもこの件は話題に上がり、甲府市としてどういった形で相談支援体
制をデザインしていくのかという質問があった。かなり前からこの相談支援
体制については市と話し合いの場を持っていた所であり、自立支援協議会で
もこの体制について市としてどうしていくのか具体的に明示してほしいとか
かなり依頼してきたが、未だ提示されていない。民間の立場からすると事業所
は様々な思惑で運用していて、一枚岩で動いているわけではない。まずは甲
府市から相談支援体制についてはこうしていくという明言があれば、それぞ
れの事業所がその中でどういった役割を担っていくのかが見えてくると思
う。そこがはっきりしていない点においては悔しい気持ちもある。その結
果、現在は多くの相談があっても限られた人員と時間の中では丁寧な相談対
応が難しい。そこをどう工夫していくのかみなさんの知恵を借りたいという
ところと、行政にはこの件についてしっかり検討した上で、ひとつのビジョ
ンを提示していただきたい。

全体会会長：市では何か検討してることなどあるか。

甲府市：昨年度から市とそれぞれの事業所の代表と戦略会議という形で何度か話し合いを
してきた。まだ具体的に練れてはいないが、他市の状況を確認しながら考えてい
るところである。甲府市の相談の経過も見ながら、市としてどうしていったら
いか考えていきたいと思っている。

全体会会長：市でも戦略会議等を開催しているので、市としての相談支援体制のビジョ
ンや、基幹相談支援センターのビジョンも併せて検討していけたらよいと思
う。

オブザーバー：市が持っている戦略会議である程度話が進んでいるという話があったが、
自立支援協議会でも話を詰めていくのであれば、どのようなやりとりをす
るのか、どういったすみ分けで行っていくのかを知りたい。

全体会会長：戦略会議は甲府市がビジョンを作りために行っている会議として理解してよいか。

甲府市：市が音頭をとってりんくと機能強化型事業所に集ってもらい、今後について、今の課題も含めて何度か話し合いを行った。市としてのビジョンを考えつつも、市だけで作るものでもないとも思っているの、みなさんがやりやすい、効果的なアイデアをいただきながら作り上げられればありがたいと思っている。

全体会会長：すみ分けとしては、戦略会議では甲府市、りんく、機械強化型事業所である程度たたき台のようなものをつくってもらって、それを定例会や全体会で検討していく形がいいのかと思う。

委員：戦略会議に向けての各市町村の状況調べを全く取っ払ってしまって議論を進めるだけの情報が集まっていないように思うが、甲府市はどう考えているか。

甲府市：市で中心になって情報を集めて、ある程度方向性を示すと認識している。現状なかなか進んではいないところではあるがそういった認識でいる。

委員：そういった状況で会長の方から投げられてしまっても戦略会議でたたき台を出せる状況にはならないのではないか。

甲府市：市の方である程度方向性を作って戦略会議で議論していくという考え方でいる。

定例会会長：2月の戦略会議で9月を目処として調査の提示をお願いしていた。これまでも何度か話が出ている中で、市の担当が変わると引継ぎがしっかり行われていないのか初めて聞いたという対応が多く、軽く扱われているように感じていた。協議会で問題提起するだけでなく、戦略会議を通して、一緒に考える場を持って動いていきたいと思っている。今年度中には前向きな計画が立てられればと思う。

りんく：りんくとしては今後の体制について考えていくところと、そのための根拠となるところをしっかりと整理していきたいと思う。

委員：戦略会議の中で様々な意見を出ささせていただいて、それらが形となって取り組んでいけると期待していたので、今度きちんとした形でつながってってくれるといいと思う。第2層がだんだん膨らんでいってしまい、困っている人たちがたくさん

んいて、どこにもつなげられない人達がいる中で、今度どういった方法で支援していくのかといったところが心配。第3層は市の力も借りながら体制づくりができると思うが、第2層についてとても心配しており、戦略会議でも意見が集約されていると思うのでこういった人たちをどのような支援をしていくのか、現場の方たちも大きな期待をしている。

全体会会長：戦略会議で甲府市の相談体制について考えてもらっている。その中で甲府市が他市を含めた情報収集をし、戦略会議である程度まとめてもらう。そこでできたたたき台を協議会にかけてもらう。戦略会議で甲府市や事業所ができることできないことを詰めていってもらい、可能な相談体制を考えていきたい。今年度中にある程度形が見えていけたらいいと思う。

②地域生活支援拠点事業について

甲府市：資料2の説明

らいぶ：資料2の説明

甲府市：いままでの相談において、短期入所に繋がらず環境にマッチできないケースがあったこと、家事援助でヘルパーが入ることで居宅においても安定できたケースがあったことから、現在の登録対象者の要件について、短期入所支給決定を要件から削除したいと考えている。5月27日の定例会では特に異議の声はなかった。全体会においてもご協議いただきたい。

全体会会長：この変更について質問はあるか。

委員：短期入所支給決定が要件にあった理由を知りたい。

甲府市：拠点の5つの事業の中で緊急時の受け入れ対応があるが、この機能が短期入所などを活用した常時の受け入れ態勢を確保した上で、介護者の急病や障がい者の状態変化などに応じて必要な対応ができることであるため、短期入所支給決定を要件に入れていた。実際相談を受けてみたらうまくいかないケースが多々あり、要件の変更を考えることとなった。

委員：今の支援体制に合わせるといふところ、短期入所支給決定を削除したほうが幅広い対象者にサービス提供ができるという趣旨で外すという認識でよいか。

甲府市：その通り。

らいぶ：短期入所を利用したり、緊急でサービスを利用した場合に事業所に介護報酬上の加算がついたりするが、そういったところで登録されている人が緊急時に利用した場合は介護報酬と連動するところがある。らいぶへの相談自体は登録が条件ではない。

全体会会長：今回の協議の案件は登録対象者についてであり、らいぶへの相談は特に短期入所にこだわっているわけではない。ただ登録者も今後いろんな方が登録できればいいと思うので、短期入所支給決定が削除されることによって、登録できる人たちの幅が広がっていくという理解でよいか。

らいぶ：その通り。

委員：短期入所支給決定がない方でも、緊急時の短期利用がしやすくなるため、要件から外すのは良いと思う。しかし、短期入所支給決定がない方が緊急的に短期の利用となったときに、事業所の請求が月遅れ請求やみなし処理等の会計上の手間が出てくることがあるので、そういった方が利用する際に、スムーズな事務処理ができるように市でも連携を取ってもらいたい。また登録者数の表で、基準日にルールが見られないので、ルールがあればよいと思う。当該年度に登録された方が見えたほうが年度ごとにどのくらいのニーズがあるかがわかり、良いと思う。

全体会会長：地域生活支援拠点事業の登録対象者の要件変更について承認でよいか。

委員：異議なし。

地域生活支援拠点の登録要件変更について承認された。

【議事】（報告事項）

①専門部会の活動報告及び協議について

委員：資料3の説明

質疑なし

②甲府市障害者基幹相談支援センターりんくからの報告

りんく：資料4の説明

質疑なし

③その他

- ・新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン及びBCP（業務継続計画）の作成状況等の調査結果

りんく：資料5の説明

全体会会長：今週に入って感染爆発しているが、甲府市での現時点の情報提供をお願いしたい。

甲府市：通所施設1か所はクラスター、もう1か所はクラスターまではいかないという状況。

- ・ヤングケアラー支援について

甲府市：昨年12月に山梨県でヤングケアラー支援に関するガイドラインが作成され、甲府市でも県のガイドラインを受け、作成に取り掛かっているところである。企画財務部SDGs推進課が担当課となり体制整備をしているところである。5月27日の定例会の時点から進捗はなく、SDGs推進課で庁内の連携した支援体制の整備や行政、学校、介護や障がいに係る支援者の役割等をまとめている最中である。連携した体制整備を進める中で基本的な方針について現在調整を図っている段階である。

【その他】

山梨県障害者自立支援協議会について

オブザーバー：資料の説明

質疑なし

全体会会長：全体会のあり方について今後検討していただきたいことがある。全体会で話されている内容は定例会ですでに話されており、情報共有がされている。今後全体会と定例会を統合し、そこでじっくり検討していくのはどうか。理由として2段階で承認を得ていると進むことに対して時間がかかってしまうことや、定例会も全体会も領域が同じところから委員を選ばせてもらっているため1本化してもいいのではないかと考えており、みなさんの意見を伺いたい。もしそうではない意見がある場合は、全体会のあり方を検討していきたいので協議会のあり方についてみなさんに考えていただきたい。

また、緊急で承認を得なくてはいけない案件がある場合は定例会の会長と相談し、私の方で決めていくという方向で了承していただきたい。

甲府市：以上で本日の議事を終了する。
会議終了